

令和5年度(2023年度)第2回 吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議 議事録

日時 令和6年(2024年)2月9日(金) 午前10時～11時30分

会場 夢つながり未来館 4階 多目的会議室

1 次第

【はじめに】

議事進行 小川参事

・あいさつ

吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議設置要領 (資料1)

・出席委員紹介

【議題】

(1) 報告

① 青少年室より

令和5年度子どもプラザ事業実施状況(12月末) (資料2)

令和6年度「太陽の広場」民間委託モデル事業について

② 放課後子ども育成室より

令和6年度入室申請受付児童数について

留守家庭児童育成室事故発生件数及び令和6年度事業委託する育成室について

③ 各委員より

今年度の活動の様子や成果、課題等

(2) 検討

① 運営会議設置要領第2条の検討内容について

(3) お知らせ

・太陽の広場見学会報告(別紙1:アンケートまとめ)

・教育コミュニティ紙「北東西南」案(別紙2)

・令和6年度第1回運営会議について(資料3)

2 構成委員(20名)

大川委員(委員長)・堀委員(副委員長)・小川委員・西委員・木村委員・国本委員・中村委員

坪野委員・湊崎委員・佐々木委員・岡本委員・澤田委員・小松委員・大中委員・豊留委員

大元委員・大澤委員・矢吹委員・宮崎委員・堀委員

事務局(4名)

廣田 典子 (青少年室 主幹)

廣瀬 康彦 (青少年室 主査)

吉江 陽子 (青少年室 係員)

佐倉 和美 (青少年室 係員)

3 議事録

委員長

- ・開催あいさつ
- ・設置要領第2条に基づき進行

委員 H

- ・令和5年度 12 月までの太陽の広場の実施状況報告(資料2)の中で、縦列に4か所色を付け、最下段には令和4年度 12 月末までの数値を示している。左から

開催日数 令和4年度 1,072 日 ➡ 令和5年度 1,158 日

育成室児童を含まない 1 回平均参加者数合計 令和4年度 1,907 人 ➡ 令和5年度 2,361 人

育成室児童を含まない平均参加率 令和4年度 8.9% ➡ 令和5年度 11%

と、いずれも増加し、居場所の一つとして太陽の広場がしっかりと位置づいているとわかる。

しかし、ニーズは高まっているが、

フレンド登録者数 令和4年度 499 人 ➡ 令和5年度 458 人

と減少しており、人材確保は依然として課題である。

- ・けがについては昨年度が年間 14 件だったのに対して今年度は 12 月末で 17 件と若干増えている。毎年フレンドをはじめ、青少年健全育成に関わっておられる方を対象に安全管理の講習会も行っており、次年度以降もけがや暑さ対策などには気をつけて、見守りをしていただけるようサポートしていくつもりである。

事務局

- ・令和6年度太陽の広場民間委託モデル事業について、本市では、放課後の児童たちの居場所の一つとして、「太陽の広場」事業を、平成 15 年度(2003 年度)から毎週水曜日の開催を目標に、「地域の子供は地域で守る」との考えのもと、地域教育協議会に委託し、全小学校で実施してきたが、現在、先のコロナ禍による地域活動の縮小や休止により、地域ボランティア(フレンド)の不足が顕著に現れている地域や、開催回数が月 1 回という地域も複数あり地域差が出ている。
- ・人材確保、事務作業等が負担となっている地域からは今後の事業継続が難しくなるとの不安の声があり、事業運営で労力の大きい部分を民間委託することで、地域の負担を軽減し、児童が安心して過ごせる居場所を持続できるよう2年間で検証を行うことを目的に、地域の意向をふまえ2校で実施することにした。選定については、地域の意向を優先し、活動場所が安定的に確保できること、学校規模適正化の状況など学校とも相談の上、山田第一小学校と江坂大池小学校を選定した。委託内容としては、授業のある期間は週2回の放課後、長期休業期間は週3回の午前中実施を予定している。
- ・本来、この事業は、地域に委託し地域で実施していただくことを基本としており、現在において、検証後に各校へ広げていくことを予定しているものではないが、本事業が持続可能となるよう検証していくつもりであり、詳細については決まり次第、報告させていただく。

委員 Q

留守家庭児童育成室等についての現状と進捗状況(参考資料 1)

- ・令和6年度 留守家庭児童育成室及び放課後キッズスクエアの申請受付状況について、昨年度の同時期と比べて、350 人近く増加しており、昨今の吹田市内の児童数の増加及び育成室のニーズの増大がうかがえる状況となっている。入室希望の児童が増加すると、新たな教室と指導員が必要となるが、教室の確保、指導員の確保とも厳しい状況にある。
- ・教室の確保については、関係部局とも連携しながら、小学校と交渉し確保に努めている。指導員の確保については、保育士不足や教員不足が全国的に深刻な問題となっている中、更に困難になっている。2か月に1回の採用試験や人材派遣などの取組に加えて、民間委託を推進しているところであるが、解決するには至っていない。

- ・市直営の育成室においては、十分な指導員の確保ができないので、来年度も、年度当初には多くの育成室で、入室できない子供たちが出るものと見込んでおり、その対策として、令和6年度も放課後キッズスクエアを暫定的に実施する。その現状や次年度の見通し等については、後で報告する。
- ・留守家庭児童育成室の運營業務委託状況について、入室希望児童への対応として、待機児童の主要因である指導員の欠員解消を目的に、民間委託を進めている。今年度は新規に千二育成室、江坂大池育成室、契約期間満了に伴い青山台育成室の3育成室について公募を行ったところ、千二育成室に6事業者、江坂大池育成室に9事業者、青山台育成室に7事業者の応募があり、令和5年6月24日に一次審査、令和5年7月8日に二次審査を行い、事業者を選定した。

事業者については以下の通りである。

千二育成室、青山台育成室・・・社会福祉法人 光聖会

江坂大池育成室・・・・・・・特定非営利活動法人 スポキッズ

- ・委託事業者の光聖会は、現在、千里丘北育成室、山三育成室を運営している。スポキッズについては、現在、吹二育成室、吹六育成室、西山田育成室のほか、他府県においても、放課後児童健全育成事業を運営している。両業者とも来年度の委託開始時からスムーズな運営ができるよう、昨年10月から引継ぎ保育を行っている。
- ・今後の運營業務委託について、指導員不足が依然、厳しい状況となっているので、来年度は取組を加速化し、豊二育成室、南山田育成室、佐竹台育成室、津雲台育成室の4か所について委託先の選定を行う予定である。

委員 F

- ・留守家庭児童育成室の年度別事故発生件数について、育成室入室児童数は年々増加しているが、事故発生件数はそれに比例して増えている状況ではない。今年度も、けがに対応にかかるマニュアルに基づき、全ての育成室、指導員が、けがの未然防止及び適切な対応に努めている。育成室は、成長途中にある子供たちが集まる場所で、けがをなくすことは難しいかもしれないが、子供たちが、安全に安心して過ごすことができるような、保育に努めていきたいと考えている。

委員 M

- ・太陽の広場活動について、フレンドの不足は課題であるが、令和4年度に比べて令和5年度は活動日数が増え、多くの児童が参加してくれることで、けがやこの時期は感染症、インフルエンザ等も多くなるが、何とか順調に進んできたと思う。
- ・今年度気になった雨天時と暑さについて述べると、週3日以上開催している学校9校のうち4校は専用教室があって雨天でも活動できるが、ほとんどの学校は水曜日の放課後だけ実施しているので、専用教室がなく雨天時は太陽の広場が中止となったことが結構あった。水曜日は授業の終わりが早く、子供たちは太陽の広場を楽しみにしているので、天気は左右されることなく友達と過ごせる時間や、居場所を確保できるようになればありがたい。特別教室や図工室等、授業がなく学校教育活動に支障をきたさないのであれば使用できる可能性もあるかなと思うので、学校にはご協力いただきたい。今年の夏は暑さ指数が尋常でなく、夏休みの学校の水泳指導の時期に合わせて太陽の広場を実施している学校もあったが、朝の9時くらいから黒球型携帯熱中症計の警報音が鳴り、9時半には外に出られない状態で水泳指導も中止になり、太陽の広場の開催どころではなかった学校もいくつかあった。重ねて、エアコンのある部屋を使用させていただくことができれば、雨の日や暑い日でも活動できるので、ご協力いただきたい。

委員 D

吹田第二小学校

- ・2学期から分割をやめ、一斉開催しているが、学年によって参加人数に偏りがある。

- ・冬時刻で早く太陽の広場の活動を終了する期間は、高学年は 10 分くらいしか参加できないが、休み時間や近所ではできないサッカーや野球を、寸暇を惜しんで楽しむ姿が見られる。異年齢で遊ぶ太陽の広場の本来の姿も見られ微笑ましい一方、ボールが強く当たることもあり、けがをしにくいやわらかいスマイルボールを使用している。多様な遊びで運動場が一杯になるが、児童の危機回避力が高い地区だと感じる。
- ・フレンドは協力的で、運動場の安全の見守りや学習室でのルールづくりをしてくれているが、高齢化は否めないなので新たな人材確保は課題である。
- ・連携については、吹二育成室の「お祭り」に参加できた。また、運動場の遊びは時間や場所を分けたり、ビブスを着用してくれたり、うまく協力できている。
- ・学校の水泳指導の時期に合わせて太陽の広場を夏休みも開催したが、暑さ指数が 31 度を超え、活動をやめて途中で下校させることでかえって熱中症への危機感が高まると感じた。

岸部第二小学校

- ・いつもはほぼ決まった児童が参加しているが、今年度から登録制を廃止したことで、後半になって初めての児童や久しぶりに参加する児童もおり、また冬時刻が終了し、活動時間が長くなった2月からは高学年も参加しやすくなり、参加人数は増加傾向にある。
- ・安全面では、運動場が密にならず問題ない。
- ・岸二育成室の指導員の方々もしっかり見守ってくれ、遊びも一緒にするなど連携がとれている。
- ・広場の受付場所が運動場や各教室から離れていることが参加率の低さの要因の一つであると考え、空き教室の確保が難しく改善の余地はない。
- ・今年は久々に外部講師による活動プログラムが実施でき、大盛況だった。
- ・フレンドの高齢化は吹田第二小学校と同様だが、みなさんととても協力的でよく見守ってくれている。

東佐井寺小学校(毎日開催校)

- ・下校の早い曜日や日課の日に比べ、とりわけ 11 月～2月の参加率は低い。近くに公園や児童会館もあり、遊びに事欠かない地域性も原因の一つであると思う。
- ・児童が活動する際、運動場が混みあうほどの人数ではないが、頭を柱にぶついたり、石投げ遊びをしたままおでこに当たったり、長縄を引っ張ってすりむいたりなど遊び方に問題があるけがが数件みられたので、注意して見守っている。
- ・育成室はビブスを着用してくれている。冬季は太陽の広場が早く終了するので交流はできない。
- ・夏休みに、太陽の広場を学校の水泳指導の時期に合わせて開催したが、参加が少なく、魅力あるプログラムが必要だと感じた。
- ・地域の協力が豊かな校区で多くの方がフレンド登録をしてくれている。今年は久しぶりに「ひがさいっこステーション(地域の学校)」も開催でき、多くの子供が楽しむことができた。

委員 H

- ・西山田小学校では、雨の日や暑さ指数が 31 度以上になった場合でも教室を借りることができているので、中止することなく雨天も夏休みも太陽の広場を実施することができた。
- ・学校や西山田育成室と活動するうえで、月に一度行っている連絡会議や日々の活動時に様々なルールを決めたり、運動場では遊びのエリアを決めてけがの防止に努めている。
- ・西山田小学校のフレンドは現役保護者及び元保護者で、14 名活動してもらっているが、働いている人も多いので調整してシフトを決定している。
- ・他の学校によっては運動場の近くに借りることができる適切な教室がない、あるいは児童数が多いので空き教室がないなどの理由で、暑さや雨を避けて活動できない広場も多くある。吹田市としては徐々に児童数は減少していくとなっているが、限定的にニュータウンなど、一部の地域では増加する可能性があることと、段階的な 35 人学級編成の影響もあり今後も教室確保は困難であると思う。
- ・コロナ禍で太陽の広場を開催できなかった時にフレンドが仕事を始めるなどしてフレンド数が減少した広場

もあり、依然、人材確保は課題である。

委員 S

- ・今年度も1, 3, 5年、2, 4, 6年と学年を分散しての開催とした。これまで雨などで中止にならず、今年度は、偏りなく開催が出来た。毎回 100 名超えの参加で、南山田育成室と合わせると 300 名近くの児童が運動場で遊ぶ事になるので、来年度の開催形態(全学年一斉、分散)については、学校、育成室と相談をして決定していくつもりである。
- ・外遊び用玩具購入に利用していたトイザラスが閉店となり困っていたところ、昨年度のように、今年度は全ての玩具を、カタログでの選択ではあったが、学校を通して購入することができた。更に太陽の広場の活動時に学校に搬入もしてくれるので助かっている。他の太陽の広場でも玩具購入方法の一つとして考えられるのではないかと思う。
- ・現在登録フレンド 16 人のうち新規登録は5名である。今年度、PTA 会長が学校 PTA 公式 LINE やInstagram、ブログなどに広告ポスターを作成しアップしてくれたこと、広報委員が太陽の広場の特集を取材してくれるなど、フレンド募集に貢献してくれたおかげで、見学に来て、1 時間から参加出来るシステムがフレンドとして参加しやすいと登録してくれた方がいた。
- ・コロナ禍以前に実施していた卒業生の保護者へ、卒業後も太陽の広場のスタッフとして参加できる事のお知らせと募集案内を配付するかを検討中である。そして、来年度の新一年生へは、今までのように「太陽の広場とは何？」を図式にしたり、漫画的にイラストを描いて一問一答のように子供も大人もわかりやすい募集案内を作成しようと考えており、馴染み深い学校でスタッフとして児童に関われる楽しさを少しでも伝えていこうと思っている。

委員 I

- ・今年度から図工室と高学年図書室を使用してもらい、雨天でも太陽の広場を開催しているので、今後、室内で遊ぶ玩具を増やしていきたいと思っている。
- ・フレンドも高齢化が進み、今年度入ってくれた人はいなかったが、多くの方に参加してもらいたいののでしっかり募集をしていきたい。

委員 F

- ・放課後キッズスクエアは年度当初 10 か所でスタートしたが、その後人数が減少し、現時点では8か所での実施となっている。児童は、スタッフの見守りの中で、校長先生のご理解のもと、学校から借りている教室で宿題をしたり、運動場で遊んだりして過ごしている。
- ・放課後キッズスクエアの課題としては、主に、遊び道具の充実と、スタッフのスキルアップが挙げられる。遊び道具は、令和6年度、可能な限り今年度よりは充実させていく予定である。スタッフのスキルアップについては、事業者の方に引続き求めていくとともに、青少年室の「青少年指導者講習会」への参加も引続き促していく。
- ・令和6年度は、育成室の入室申請基準を満たす、原則4年生の児童を対象に、学校内で放課後の安全な居場所である放課後キッズスクエアを実施することで、保護者の方々が安心して、就労できる環境を暫定的に整備する。実施予定の小学校は、直営育成室設置で、待機児童の発生しそうな 17 か所を予定していたが、現在、その確定に向けて、最終の調整などを行っている。
- ・育成室、放課後キッズスクエアと太陽の広場との連携について、育成室児童及び放課後キッズスクエア児童の活動と交流の場を広げることは、児童の健全育成を図っていく上で、大切なことと考えている。
- ・今年度、各小学校における太陽の広場の連絡会議に、育成室の指導員及び放課後キッズスクエアのスタッフも参加し、遊びのルールやマナー、遊び道具の使い方などの確認及び避難訓練など合同での行事等の打合せなどを行った。

- ・令和6年度以降も引き続き、育成室の指導員及び放課後キッズスクエアのスタッフも太陽の広場の連絡会議に参加し、児童の健全育成のため連携していく。

委員 G

- ・今年度開設した放課後キッズスクエアであるが、放課後キッズスクエアの参加人数には差があり、年度内に閉室した学級もあった。
- ・放課後キッズスクエアとの連携において、当初は放課後キッズスクエアと育成室の児童のかかわりに制限があり混乱がみられたが、懇談を通じて児童の様子などを共有し、放課後キッズスクエアの先生も困りごとなどを話せるよい機会となった。また、お祭りの際に放課後キッズスクエアがコーナーを担当するなどの関わりもあった。ただし、全ての育成室が連携できたわけではなく、児童の要望に基づくものが多かった。今年度、待機児童の卒室式を開催する育成室もあるため育成室内で話し合いをしている。
- ・放課後キッズスクエアと児童間のトラブル時は指導員が間に入り仲裁することが多い。また、学校独自のルールもあるため、それぞれの学校のルールを踏まえ、育成室が主導し、安全に配慮して運動場での配置などを考えている。次年度に向けて互いの運営がスムーズになるよう連携を図りたい。

委員 C

- ・本校の太陽の広場は、フレンドの協力で、毎週水曜日開催できており、今年度もほぼ予定通り開催できた。児童も水曜日の「太陽の広場」を楽しみにしており、笑顔で図工室に入ってきて、宿題をしたり、運動場遊びに行ったりと、自主的に過ごしている。太陽の広場が気楽で楽しい場所だと子供たちが感じているので、児童の参加率も高い。
- ・フレンドも笑顔で子供たちに対応し、愛情をもって連携して見守ってくれており、フレンド自身も子供たちから元気もらっていると喜んでくれることには感謝しかない。
- ・各小学校のフレンドは子供たちのために、という思いがあり、お金がほしくてやっている人は少ないと思うが、フレンドを続けられなくなる事態も起きている。大阪府の最低賃金が令和5年10月1日現在で時給1,064円という中、太陽の広場のフレンドの業務(児童の見守りなど)は、労働に近いものがあるので、フレンドの謝礼金1時間824円を検討していただきたいと思う。人手不足を解消して、満足度が上がるものにしていくには、必要などころにお金をかけることが必要だと考える。

委員 P

- ・学校の中で見える様子と今後、気になる点について、千一育成室では、多くの児童を保育する中、地域行事の復活でパフォーマンスを披露するための出番があったり、自分たちで作ったお祭りでそれを披露したりと児童が主体で動く活動を指導員さんたちが頑張って指導してくれた。本校で生じた虐待事案やいじめ事案については、必要に応じて連携し、情報共有する機会が幾度となくあり、とても助かった。
- ・太陽の広場は、定期的な開催により多くの児童が参加することが定着してきたように思う。ただ、第一回の会議の時には開催回数を増やせると思っていたが、実際に動けるフレンドが少ない現状があるので、引き続き、スタッフを募りながら、回数が増やせないか検討してもらいたいと思う。
- ・放課後キッズスクエアは、一年を通して特に大きなトラブル等はなく、放課後の見守り活動を行ってもらっている。3学期からおやつボックスの運用も始まったのでトラブルが起きないように見守っている。
- ・限られた敷地内で、立場の異なる三者が活動しているので、学校施設をよりうまく使えるよう市から予算措置をしていただきたい。また、今年自分がけがをしたことで、バリアフリーがないと気付いたので、施設面の改修を考えてもらいたいと思う。

委員 O

- ・地域教育協議会の活動も、コロナ禍が明け、徐々に各地域でイベント等々も含めてにぎやかに開催されつ

つあるが、地域性もあり、イベントができてないところもある。

- ・第六中学校区は、基本的にこの数年間ある程度の活動はやってきたので、特別新たなことをやる方向は今のところ見受けられない。今後、地域教育協議会として中学生の活動をどのようにサポートしていくのか、中学生の意見を聞きながらどうすればより良い活動にしていけるのかを考える必要があると思っている。中学生が地域にとって必要な存在だということを体現できるような活動を、地域としても考えていきたい。そのテーマの一つは防災じゃないかと思っている。
- ・災いが起こることはやむを得ないが、減災をするためには自助、共助、公助が必要だということは、みなさん方もよく知っていると思う。ただ、その共助が今、地域の中で壊れつつあることが非常に重要な問題であり、地域の中学生が共助という点において重要な役割を担ってくれるのではないかと感じている。
- ・太陽の広場の人材不足のように、地域の学校も、「土曜スクール」として各地域で展開されているが、後継者不足ということが言われている。自身も地域の学校には20数年携わっており、その中で人がどんどん変わっていきながら運営はされてきているが、新しい若い人が生まれてきていないので継続性に疑問がつく。せめて60代の方が、「土曜スクール」にも講師として参加できるようにしてほしいと切に思う。
- ・地域の学校の講師は、無償ボランティアである。今後、吹田市の施策として無償ボランティアを有償として、地域の運営が継続的にできるようにしてもらいたい。
- ・昔は地域の子供会を経験したのち、いろんなところに地域の人材として、たくさんの方が配置されていたのだが、子供は増えているにもかかわらず、子供会は衰退してきていると感じる。吹南地区の子供会の組織そのものも、非常に危ない状態になりつつある。他の地域でも同様の話を聞くので、今後、考慮しなければならぬことの一つだと感じている。

委員 N

- ・私自身は中学生の子供がおり、現在、第二中学校のPTA会長をしている。
 - ・吹田市のPTAの現状ということで、コロナでずっと2、3年、活動が止まっていたところが多く、その中で、活動の見直しや、これをきっかけに負担の軽減などをされる学校がほとんどで、紙の配付物をなくすなど、いろいろスリム化はされている。
 - ・困っていることとして、コロナ禍で、PTAの非加入希望者が増えてきていることである。また、人材、役員や委員のなり手が少なく、PTAは任意のボランティア団体であるのに委員などいまだにクジ引きで決めているのが現状である。学校によってはもう、PTAは必要ないという話もある。
 - ・私の個人的な考えではあるが、私の住む第二中学校区は、見守り活動やごみ拾い、パトロールなどを、太陽の広場のフレンドや地域の高齢クラブの人がやってくれ、PTAが当番で出てきてやる必要がないので、学校の代表として地域の行事とか、お祭りなどは日頃のお礼もかねて、PTAとして、貢献するのが、当たり前のことかなと思っている。
- 先ほどの子供会の問題だが、3年ぶりに今年の秋に行った市民体育祭で、小学生の参加がとてもなく子供会が減っていつていることも影響していると感じている。中学校のPTAとして、地域の問題をいろいろと協議しているところである。

委員 J

- ・令和5年度についてはコロナ禍以前の教育活動に徐々に戻している。また、年間を通してインフルエンザが流行しており、学級閉鎖もかなりの数が出ている状況である。
- ・学校行事では、運動会を一斉に実施している学校が多く、校外学習ではバスや電車などの公共交通機関を利用し、修学旅行については全ての小中学校で、実施することができた。課外クラブ、部活動についても、コロナ禍前の状況に戻って、実施している。
- ・児童の一日の様子としては、まず登校して自らの端末を開け、体調管理等について「デイケン」というアプリを使用して自ら入力する。そのアプリには心の健康に関する項目もあり、先生に相談したいことがあれば、

入力することができ、児童の心と身体をサポートをしている。授業では、一人一台の学習用端末を文房具の一つとして、児童、生徒が調べ学習やプレゼンテーションの作成や学習記録を撮影したり、自宅に持ち帰り自学自習の道具として使用している。教師も課題配付やグループ学習で端末を活用し、教科によっては、デジタル教科書を使い学習を進めている。

- ・今年度は「さくら連絡網」でスマートフォンなどの端末からアプリを利用して、欠席連絡ができるようになった。保護者は、朝の忙しい時間、時にはつながりにくい学校への電話を、アプリで連絡できるようになり、保護者の負担軽減につながっていると同時に、教職員も授業の準備等に時間を充てられるようになった。
- ・不登校児童生徒については、全国的にも増加傾向にあり、本市でも同様である。不登校は誰にでも起こりうることであり、ひきこもりや将来に渡って影響を及ぼすとの指摘もある。
不登校児童生徒の教育機会の確保や相談体制の充実等、学校にとどまらず、対象の児童生徒が社会全体で受け止められるよう不登校の対策を関係諸機関と連携しているところである。
- ・来年度、教育センターが南千里駅の「吹田市総合防災センター DRC Suita」の8～10階に移転し、教育支援教室、「光の森」「学びの森」も同施設に移転する予定で、準備を進めている。

委員 A

- ・児童数推計については、千里ニュータウンを中心に公営住宅の建替えによる余剰地の売却等により、児童数が増加する見込の小学校が一部あるが、今後、吹田市全体としての児童数は減少傾向の見込である。
- ・学級数は、義務標準法の改正による段階的な35人学級編制の影響により、数年は横ばいで、その後は減少する見込である。
- ・学校規模適正化の案件の報告として、山田第五小学校が昨年度から全学年1クラスの過小規模校となっていたことから、今年度、学校規模の適正化の検討に取り組んだ結果、令和7年度に、山田第五小学校を山田第三小学校に統合することが決定した。それに伴い留守家庭児童育成室も同様に統合する。

委員 L

- ・令和5年度、子育て政策室では、不登校児童対応について児童センター全館で、平日の授業時間中において不登校児童本人や保護者からの利用申出があった場合、可能な限り受入れるということを取組んできた。令和5年4月～10月までで利用があった施設は、5施設で各1名の利用となっている。
- ・東佐井寺小学校の取組の支援として、平日の授業時間中の児童の多様な居場所を確保する観点から、五月が丘児童センターの図書室にWi-Fiを整備した。更に、五月が丘児童センターでは、2月20日(火)より、不登校ボランティアが来館し、市内全域から不登校児童を対象に週1回のペースで授業時間中の居場所の提供をモデル的に行う。原則として、保護者と学校長の同意が必要で不登校児童親の会等を通じて徐々にこの取組を広げていきたいと考えている。
- ・児童会館条例改正について、2月定例会において条例案件で児童会館条例改正を提案している。主たる提案内容は、児童館の今後のビジョンを「子供とその家族に寄り添い続け、成長を育む児童館」として利用対象児童を中学生まで引上げ、子供主体の児童館に刷新していくことで、令和7年4月1日施行予定である。

全委員の発言終了

委員長による確認事項

- ・活動場所の問題、うまく連携しているが、けがの対応については課題がある。
- ・人材確保のことでは、お金が問題ではないというものの、フレンドの単価や地域の学校のスタッフの無償の問題などがある。
- ・地域で共助が弱くなっている現状があることに対して、地域任せではなく行政ができる支援を考える必要がある。

ある。

事務局

地域ボランティアのフレンドの謝礼金の単価については 20 年間変わらず、端数の計算などが事務の負担になっていると認識している。民間委託モデル事業を開始するに当たり、賃金と謝礼金の違いはあるが、地域格差を少しでも解消し、地域の事務負担軽減も考えた上で、本会議にて単価 1,000 円で提案を予定している。

質問や確認事項

委員 S

放課後子ども育成室から、今年度、待機児童を対象に、4年生の放課後キッズスクエアを開催したと聞いたが、私たちがそういう認識である。

来年度についても、待機児童が発生する育成室を、ピックアップし、放課後キッズスクエアが 17 か所に増えると聞いたが、今後どのような方向性を持って放課後キッズスクエアと、育成室の連携を進めていこうと考えているのか。

委員 F

放課後キッズスクエアは、指導員の欠員解消を一定実現するまでの間の暫定的な取組として理解してもらいたい。

民間委託となった育成室については、待機児童は発生していない。

放課後キッズスクエアと、育成室との連携については、育成室の安全安心、そして放課後キッズスクエアの安全安心が第一である。その上で、連携して一緒に遊ぶのが可能ということになれば、そのようにしている。

委員長

学校のバリアフリーについては大変重要なことである。学校施設の様々な改善計画を進めている学校管理課へも情報共有していく。

事務局

- ・太陽の広場見学会報告(別紙1:アンケートまとめ)
- ・教育コミュニティ紙「北東西南」(案)紹介(別紙2)
- ・来年度第 1 回運営会議 令和6年6月 21 日(金)10 時～未来館4階多目的会議室
- ・資料3について、今年度で新・放課後子ども総合プランは終了するが、「放課後児童対策パッケージ」に則り、今後の会議の進め方など整理して、子供の居場所づくりを推進していく。

委員長

閉会